

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

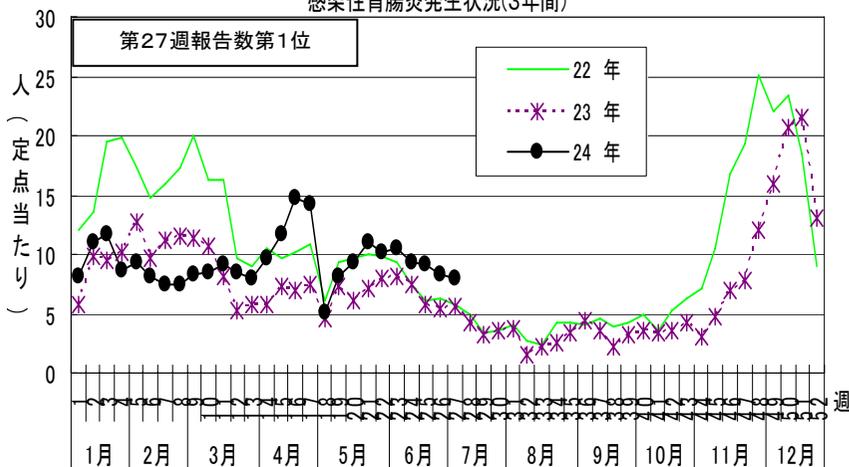
平成24年7月2日（月）～7月8日（日）〔平成24年第27週〕の感染症発生状況

第27週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

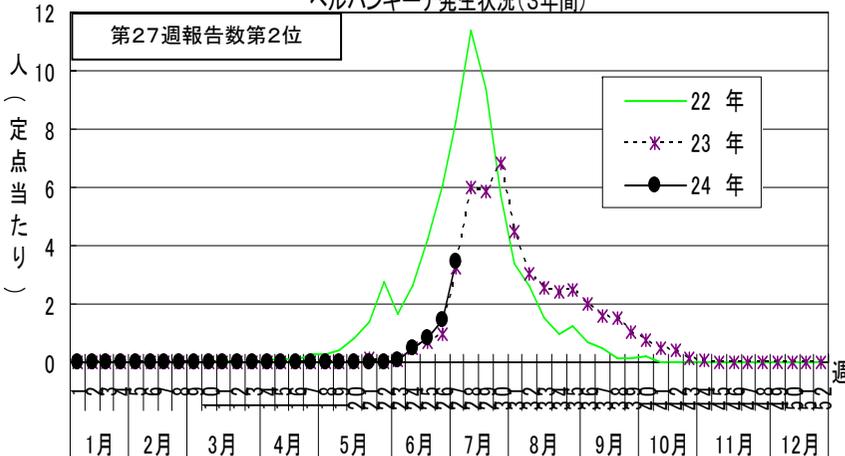
感染性胃腸炎は定点当たり7.94人と前週（8.24）より患者報告数は減少し、平成11年のデータ収集開始以来、過去同時期と比較して最多の報告が第21週以降7週連続で続いています。

ヘルパンギーナは定点当たり3.42人と前週（1.45）より患者報告数が増加し、区別では特に宮前区で報告数が多く、定点当たり7.20人となっており、流行発生警報基準値（定点当たり6.0人）を超えています。全数把握疾患については、アメーバ赤痢3件、風しん5件の届出がありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



「風しん」急増中！！～「先天性風しん症候群」に注意～

風しんは、例年春先から初夏にかけて流行が見られますが、今年は、全国的に6月以降報告数が急増しています（グラフ上）。川崎市内においても、第27週に5件の報告がありました（グラフ下）。風しんは「先天性風しん症候群」を引き起こすことがあるため、妊娠の可能性のある方は特に注意してください。

風しんとは・・・

病原体：風しんウイルス

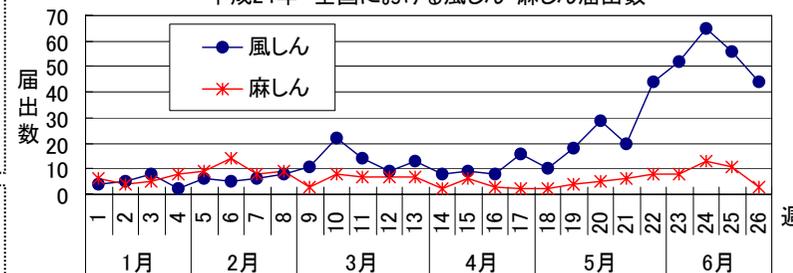
潜伏期間：2～3週間

主な症状：発疹、発熱、リンパ節の腫れ

先天性風しん症候群とは・・・

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。その対策として、妊娠可能年齢前までに予防接種を受けることが最も効果的な予防方法です。

平成24年 全国における風しん・麻疹届出数



川崎市における風しん届出数

